

発行

愛媛大学ダイバーシティ推進本部  
女性未来育成センター

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番  
E-mail [hime@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:hime@stu.ehime-u.ac.jp) TEL/FAX 089-927-8602

## 次世代育成支援

平成26年6月19日（木）愛媛大学農学部樽味キャンパス

### 『リケジョ応援企業』イントロダクションを開催しました

理系女子キャリア支援の一環として「リケジョ応援企業」の登録制度を始め、そのキックオフイベントとして「リケジョ応援企業イントロダクション～女性に優しい企業=男性にも優しい企業～」を開催しました。

愛媛大学ダイバーシティ推進本部女性未来育成センターでは、今年度から県内企業を対象に、「リケジョ応援企業」の登録制度を始めました。「リケジョ応援企業」とは、女性の能力を積極的に活用している（または今後活用を予定している）企業の中で、理系（男女）学生向けの会社説明会や、女性社員との座談会、インターンシップなどのメニューを提供することに賛同していただいた企業です。



▲株式会社あわしま堂人事課長の市川さん

今年度当初から、「えひめ子育て応援企業」認定企業や「くるみん」を取得した企業などを対象に案内をお送りし、平成26年5月1日現在で11社の登録がありました。今回は、そのキックオフのイベントとして『「リケジョ応援企業」イントロダクション』を開催しました。

第1部では登録企業の中で、女性が働きやすい環境づくりに力を入れている企業の2社から、男性も女性も育児休暇取得を義務づけたという企業の取組みや、ダイバーシティ経営企業100選に四国で唯一、建設業界で選ばれた企業の取組みについて話がありました。



▲重松建設株式会社代表取締役の重松宗孝さん

第2部のグループトークでは、5社の企業から10人の

経営者や若手女性社員の方に参加いただき、学生たちと交流しました。学生から「実際、子どもが生まれたら仕事を続けたいと思うか。」と質問があると、女性社員から、リケジョ応援企業ならではの「産休や育休は取得するのが当たり前の雰囲気なので辞めることは考えていない。」「入社前は子どもができれば辞めようと思っていたが、上司や社長が仕事の継続に後押しをしてくれ、周りにロールモデルとなる先輩がいるので考え方が変わり、今は続けたいと思っている。」と回答がありました。また、「専門性はどこまで役に立つのか」との質問では、多くの企業で専門性はあまり求めていない傾向のようで、「実際に専門性はあまり関係ない。どれくらい学生時代に何かを一所懸命やったかが重要で、理系的思考や、研究の過程や発表までの準備の方法が役に立っている。」「大学受験までの理系のベースさえしっかり築いていれば、あとは入社してからでも身に付けられる



▲若手女性社員とのグループトーク



▲もうすぐ3人目の産休に入る女性社員

し、人間性で採用を決めることが多い。」などの回答がありました。

就職活動のような場では訊くことのできないような話で盛り上がり、学生たちは企業の生の声に納得していました。

#### 【参加者の声】（一部抜粋）

- 学生のみなさまの疑問や、女性ならではの悩みを教えてください、有意義な時間を過ごすことができました。また、他社様の職場環境を良くする働きかけなど、参考になるお話も伺うことができ、大変勉強になりました。（若手女性社員）
- 今まで企業が具体的にどのようなことを行っているのか、知らなかったので、雰囲気をつかむことができ良かったです。また、女性の出産・育児に考慮してくれている企業を見極めなければと思いました。（学部3年生）

◎「リケジョ応援企業」登録については、こちらをご覧ください

→ <http://hime.adm.ehime-u.ac.jp/student/company.html>

平成26年8月8日（金）農学部樽味キャンパス

## サイエンスプリンセスプロジェクト（農学系コース）を開催しました

次代理系進路選択支援事業、サイエンスプリンセスプロジェクト(農学系コース)を開催し、女子中高生とその保護者が理系の魅力に触れ、リケジョと交流しました。

この企画は、愛媛大学理系女子学生「サイエンスひめこ」が、女子中高生を対象に理系への興味喚起を促すために企画・実施をし、今年で4回目となります。今回は、台風の接近によって、8月9日開催予定だった理工学系コースは残念ながら中止となり、農学系コースのみの実施となりました。雨天の中、中高生22人、保護者4人の計26人が参加しました。



▲本学を修了後研究員となった中野BC株式会社大西紗与さん

午前のプログラムでは、本学工学部卒業後、大学院農学研究科を修了し、現在は中野BC株式会社リサーチセンター食品科学研究所の研究員である大西紗与氏から「理系女子の働き方」について講演がありました。大西氏は、自身がどうして理系に進んだのか、進学後はどのようなことに興味があり、どのような研究をしたのか、そしてそれが今の研究開発職にどのように活かされているのかについて、述べました。また、女性ならではの視点で開発された梅酒を例に挙げ、「女性でも…ではなく、女性にしかできない仕事があります！」という言葉に、女子中高生だけでなく、傾聴していた女子学生たちも刺激を受けた様子でした。その後、大学院農学研究科のサイエンスひめこメンバーから、「理工農学部の違い」や「農学部の紹介」など説明がありました。



▲午前の部の司会をするサイエンスひめこ（農学研究科1年生）

午後からのプログラムで、参加者たちは、植物工場研究センターや、大学院生が普段使用している学生自習室などを見学しました。また、農学部のオープンキャンパスに参加し、スタンプラリーをしながら専門コースのブースを自由に回り、農学部について理解を深めました。交流会では、サイエンスひめこの4人から「リケジョライフ（理系女子の大学生活）」について話を聞き、最後に、各テーブルで自由におしゃべりする時間を設け、普段接する機会の少ない大学生と触れ合い、楽しい時間はあっという間に過ぎました。



▲大学院生たちの研究室を見学

イベント終了後のアンケートでは、参加前に「文系か理系の選択に迷っていた」人が、参加後は「理系に進みたくなった」と気持ちを変化させていました。



▲話に花が咲く交流会



▲自分の興味の変化を図式化して説明するサイエンスひめこ

### 【参加者の声】（一部抜粋）

- 女子学生の皆さんと話ができて、楽しかったし、大学のことがよく分かりました！（中3）
- どういうところに就職するのかよく分からなかったのですが、参考になりました。コースのこともわかったのが、良かったです。（高3）

平成26年5月24日（農学部）

平成26年8月7日8日（城北キャンパス・樽味キャンパス）

### オープンキャンパスにてブース出展



▲5月に開催『オープンキャンパス with 農祭』でのリケジョ相談ブース

サイエンスひめこ（理系女子学生）たちが、愛媛大学オープンキャンパスで、恒例となっている「集まれ☆未来の理系女子!!」相談コーナーを、城北キャンパスと樽味キャンパスで開設しました。ここには、リケジョならではの相談は

かりでなく、女子学生のキャンパスライフにも興味津々の様子で話を聴きに來られます。近年は親子で参加する高校生も多く、大学卒業後の進路について熱心に聴く人が多くみられるようになりました。相談ブースでは理・工・農学部の学部生や院生が自身の経験談を元にリラックスした雰囲気です話をしていました。

ブース内には、本学の女性研究者や理系女子のキャンパスライフを紹介するパネル、リケジョおすすめ本などが展示されており、通りかかった人たちも気軽に足を止めて見入ったり手に取ったりしていました。



▲親子で熱心に聞き入る女子高生

## 小学生への理系への興味を喚起する事業

平成26年8月24日（土）コムズ

### 親子でトライ！ママとサイエンス

愛媛大学理系女子学生グループ「サイエンスひめこ」が、コムズとともにイベント内容を企画し、当日はサイエンスひめこ 神原智恵さん（大学院理工学研究科環境機能科学専攻2年）が講師を務めました。



▲理系女子学生サイエンスひめこたち

最初に、神原さんが「氷は水に浮くと思えますか？」などクイズを交えながら水の不思議な性質についてわかりやすく説明すると、ノートに書き込み熱心に聞き入る小学生の姿も見られました。

また、クイズの答え合わせの際には、演示をしている神原さんのもとへ楽しそうに駆け寄り、神原さんに質問をしながらクイズの正解を自分で確かめ歓声が上がりました。

実験では、児童が保護者の手を借りながら、浮沈子を使ってペットボトルの水族館を作ったり、コーヒーフィルターと水性カラーペンを使ってあさがおの模様を作りました。ペットボトルをカいっばい押しすとペットボトルの中をお魚が上下に浮き沈む様子を見て、児童が保護者やひめこさんたちと笑顔でふれあいました。実験後の机には、児童たちが作った色とりどりのあさがおと、たくさんのペットボトル水族館で、とても綺麗に彩られていました。

イベント終了後にも、保護者と一緒にひめこさんに質問をしている姿も見られ、子どもたちには理科に関心を深めた1日となりました。



▲講師の神原智恵さん



▲水が染み込むと色がわかれていく



▲ギュッと押しすと魚が沈むよ



▲コーヒーフィルターがあさがおに

#### 【参加者の声】（保護者）

- 安価で満足できる内容だった。次回の開催を期待している。
- 子どもには少し説明が難しかったが実験は楽しめた。

平成26年8月25日（日）愛大ミュージアム

### 夏休み理科教室～宝石の不思議～

学生による調査・研究プロジェクト（愛媛大学プロジェクトE）に、『「理系女子の活躍」愛大の取り組みと新たな可能性』というテーマで採択された、スーパーサイエンス特別コース2年生の藤井麻緒さんが、自らもメンバーであるサイエンスひめこ（現役理系女子学生グループ）メンバーと一緒に、小学生の女の子に理科の面白さを伝え、将来理系に進むきっかけとなることを目的として企画をしました。「宝石の不思議」とあって、かわいいもの、キラキラしたものが大好きな女の子の親子12組、27人が参加しました。

まずはじめに、藤井さんから鉱物についての話がありました。「みんなが使っている鉛筆の芯とダイヤモンドは同じ物質からできています。」との話に、小学生はぐっと石の世界に引き込まれました。



▲講師の藤井麻緒さん



▲宝石の原石



▲おそろおそろ触ってみる

講義の後の宝石の原石に触れるコーナーでは、色とりどりの宝石の原石や不思議な石を目の前にし、子どもたちだけでなく大人たちも興味深げに触ったり覗き込んだりしていました。石についての詳しい話を聴いてメモをする小学生も見られました。その後、水晶や蛍石などを使ってメモスタンドづくりに親子で挑戦し、かわいい出来上がりに満足げに見せあっていました。

最後の自由研究相談コーナーでは、サイエンスひめこが各テーブルにつき、自由研究の話だけでなく、自分たちが小学生だった頃の話などの楽しい話で盛り上がりました。



▲どの石にしようかな



▲かわいいメモスタンドできました

学生への男女共同参画意識啓発（新入生セミナー）

## 男女共同参画の講話を行いました

本センターでは、平成24年から新入生セミナーの中で、センタースタッフによる男女共同参画社会についての意識啓発の講話を行っています。今年度はさらに、法文学部新入生セミナーで、男女共同参画に関する講話を行いました。

高校までは、男女共同参画についての講話はほとんどなく、社会などの授業の中で少し触れる程度だったという学生たちは、具体的な世界の中の日本の位置づけのデータなどを示すと、皆一様に驚いていました。これから結婚・出産を控える女子学生は特に、自分の今後の生き方を考え直すきっかけとなったとの感想を多く寄せています。男子学生も、男女共同参画は自分に関係がないと思っていたものが、男性にも密接に関わってくるという理解が深まり、刺激を受けた様子でした。

平成27年度には、理学部新入生セミナーでも男女共同参画講話が取り入れられる予定です。

## 感想（一部抜粋）

- 今まで自分の偏見で知らず知らずのうちに誤った知識を持っていました。視野の広い見方、考え方ができる人間になりたいと感じました。（教育・男子）
- 今回の講話で、私を支えてくれるものがあると分かり、生き方にゆとりができた気がします。将来の選択肢も広がりました。これからもより一層理解を深め、私自身も人の支えになりたいです。（教育・女子）
- 日本が世界と比べてこんなに（女性の管理職の比率が）低いということにすごく驚きました。なんの根拠もなしに日本は男女平等が整っていると思っていたのでとてもショックでした。（法文・男子）
- 今まで女性の立場のことだけしか考えてみませんでしたが、男性も同じように「男性ジェンダーの弊害」があることに気付かされました。（法文・女子）

平成26年7月22日～平成26年8月29日

## 夏休み学童保育を行いました

教職員のお子さん（小学生）対象の夏休み学童保育を行いました。長い休みの間、学校の宿題はもちろんですが、体育館やグラウンドを使って遊んだり、海や映画、博物館やボートなど、学外へも出かけ、充実した毎日でした。多くの学生ボランティアも関わり、子どもたちと一緒に楽しく過ごしました。



▲興居島でスイカ割り！  
電車と船を乗り継ぎました



▲愛媛大学馬術部にお邪魔しました

他機関との連携事業

## サイエンスカフェ★えひめ（共催）

身近な自然をテーマとしたサイエンスカフェ★えひめを、NPO森からつづく道主催、本センター共催で2ヶ月に1回のペースで開催しています。

第7回となる平成26年8月12日開催のサイエンスカフェでは、「愛媛のセミの話」をテーマに、NPO法人西条自然学校の今川義康さんが話題提供者となり、セミの生態と環境との結びつきや、セミの鳴き声の聞き分け方についてお話がありました。参加者は、毎回20人前後で、飲み物を片手にリラックスした雰囲気で行われます。

他機関との連携事業

## ライフ×デザイン公開講座（後援）

平成26年7月5日にNPO法人ワークライフ・コラボと愛媛県主催、本センター後援により、「ライフ×デザイン公開講座」が開催されました。元TVカメラマンで、専業主夫になったファザーリング・ジャパン関西代表理事の和田憲明氏は、軽快なトークで主夫ならではの視点の話に、会場をうならせました。



▲ファザーリング・ジャパン関西代表理事 和田憲明氏

この公開講座は、愛媛県の「えひめの次代を担う親づくり推進事業」の一環で、キックオフイベントとして開催されました。これから就職し、家族をつくっていく過程に不安を抱える今の若者たちに、社会人や乳幼児との体験交流を通じて、将来のイメージを描き「じぶん設計」することの大切さを伝えます。また、県内の主要な大学や地域の人たちと連携しながら、学生たちが主体的に関わっていくよう年度末に向けて報告会の企画、交流会なども行います。

若手研究者キャリア支援事業 平成26年度後期

## 14人に研究支援員の配置が決定しました

「若手研究者キャリア支援事業」では、出産・育児期の研究時間確保のために研究支援員を配置し、これまでの利用者は論文執筆、学会発表などの研究活動を活発に続けています。今年度は男性研究者も含み、前期は11人が利用し、後期は14人の利用が決定しました。学内の認知度も上がり新規の申請者が増えています。夫婦で研究支援を受けている研究者の支援員からは「お互いに協力され、仕事や研究の成果を出す一方、私生活では仕事よりも家族と過ごす時間を大事にしている先生方を本当に尊敬します。自分も将来、両立していく希望を持ちました。」との声があり、次世代へのよきロールモデルとなっています。



## メールマガジン配信

女性未来育成センターの取組など様々な情報をお届けしています。配信希望の方はこちらまでご連絡ください。  
hime@stu.ehime-u.ac.jp